

2022年1月9日（日）メッセージアウトライン「舌を制御する」ヤコブ3：1～12

聖書箇所：ヤコブの手紙3：1～12

タイトル：「舌を制御する」

テーマ：昨年からお話していますが、ヤコブの手紙は「信仰と行ない」の関係を教えてくれます。

本日の聖書箇所は、教師として立つ者に対するより厳しいさばきと共に、人間にとって「舌を制御すること」、すなわちその口が語ることを制御することの難しさを説いています。

教師として立つ者もそうでない者も、必ず言葉によってコミュニケーションをとっています。その言葉を発する根源は心にあります。心の思いが言葉として発せられるということです。これはクリスチャンの信仰（イエス・キリストの福音を信じている心の思い）と行ない（その人の口から発せられた言葉）という、ヤコブが語っている大切なテーマなのです。

心の思い（信仰）が行い（発せられる言葉）となるなら、私たちの舌（すなわち発する言葉）を制御するためには、私たちの心がどのような状態であるかが大いに問題となるわけです。また、自らが発した言葉を実行に移しているかとも厳しく問われているのです。

私たちは自分の舌を制御することができるのでしょうか。ことばで失敗せずに行われるのでしょうか。

新しい年のはじめ、信仰と行ないについて改めて考えつつ、心の思いと行ないをどうすれば一致させることができるのかを考えてみましょう。

## 1. 「多くの人たちが教師になってはいけない」（3：1）

### ①なぜ？

- \*この教師の中にはヤコブも入っている。自らをも戒めながら、ヤコブは教師として、あるいはみ言葉を伝える者として立たされている者の責任の重さを伝えている。
- \*教師が、み言葉を正しく伝え、正しく解釈し、自らもそのみ言葉に従って歩んでいて初めて、聞く人はそのみ言葉に信頼を置くことができる。

### ②偽善者に対するイエス様の厳しい言葉

- \*裁きを受ける教師の例として マタイ23章
  - ・律法学者たちやパリサイ人たち
- \*偽善者は教師とは呼べない。

## 2. 言葉で過ちを犯さない人がいるのか？

- ①いるとしたら、その人はその心が整えられ、その思いが完全に神の御心と一つになった

人と言える。そのお手本は、父なる神といつも心の思いが一つであったイエス様。

②古い自分が完全に死んでいるか

③言葉で過ちを犯さないため、また、信仰と行ないが車の両輪として働くために

### 3. 小さな器官「舌」の持つ破壊力

①馬のくつわと船の舵（小さくても全体に影響を及ぼすものとしてのたとえ）

②人間の舌

\*舌は人間の体の部分では小さな器官である。しかし、人間の心の中にある思いを発する重要な器官である。

\*ヤコブはこの舌の働き（言葉を発する器官）を「火」にたとえている。

③自然界を制してきた人間も舌を制することができない（7、8節）

④自然界の法則は一定なのに、人間の舌は一貫性がない（9～12節）

⑤「神の言葉」と「人間の言葉」の決定的な違い

\*神の言葉は、物事の全てを創り出す。（創世記1：1～3）

\*人間の発する言葉（すなわち、人の心にある思い）は形をとって色々な物を生み出していく。

神の言葉は最善のものを創り出し、失敗がない

### 4. 結論

私たちの心の中にあるものは、イエス・キリストを信じて与えられた聖霊によってきよめられているでしょうか。古い私たちはイエス様と共に十字架につけられて死んでいるでしょうか。イエス様を信じた後も、この世の支配者であるサタンに惑わされて、この世のことばかりに心を奪われていないでしょうか。この世に対して勝利をとるには、私たちがこの世に対しては死んだ者、神に対して生きる者として歩む以外にないのです。いつも、聖霊に満たされて神の御心に従って歩んでいるかが問われています。

「ことばで過ちを犯さない」とは、神の御心と私たちの心が一つとなって、神のみ旨に徹底的にお従いして、靈的に成熟したものとなっているかを問うている言葉です。

心にあるものが、私たちの語る言葉に表れるのですから、私たちの内にあるものが聖きものに変えられていれば、聖き言葉、他者を生かす愛の言葉が発せられるのです。イエス様を信じる信仰によって、私たちの心の内側がきよめられ、それが神の御心に叶った言葉として私たちの口から発せられることこそ、神が私たちの信仰の行いとして求めておられることなのです。御心に叶った言葉を口にし、その語るとおりに自らが生きていくことこそ、イエス様を信じる者の使命です。

新たな一年、言葉と行いをきよめていただき、信仰を行ないによって表現させていただきながら、主なる神をほめたたえて歩ませていただきましょう。